

【事例】 自転車利用者の快適性を考慮したサインの整備

<p>社会資本の概要</p>	<p>【所在地】 北海道釧路市 【社会資本の種類】 道路 【社会資本の名称(事業名)】 釧路阿寒自転車道線(釧路阿寒自転車道線標識整備) 【事業主体】 北海道 【供用開始時期】 2007年</p>
<p>配慮の概要</p>	<p>標識整備事業に際して、より快適な自転車空間とするために、誘導標識を近接する幹線道路に設置し、案内版にはサイクリングに有用な道路勾配やきめ細やかな距離情報を盛り込むなどの工夫を施した。</p>
<p>位置図</p>	
<p>施設の状況写真</p>	<div style="display: flex; flex-direction: column;"> <div style="margin-bottom: 10px;">  <p>利用者が、自分の現在位置や自転車道の勾配を確認することができる総合案内標識の設置状況。</p> </div> <div style="margin-bottom: 10px;">  <p>利用者を誘導するための自転車道誘導標識の設置状況。</p> </div> <div>  <p>自然色豊かなサイクリングコースの様子。</p> </div> </div>

<p>観光との関わり</p>	<p>○廃線跡を利用した、自然と共生する自転車道線</p> <p>釧路阿寒自転車道線は、釧路市昭和を起点として釧路市阿寒町舌辛原野に至る24.4 kmのサイクリングロードである。この自転車道は、阿寒町雄別の雄別炭鉱と釧路を結ぶ石炭輸送のための鉄道であった雄別鉄道の廃線跡を利用している。自転車道線は、雄別鉄道の廃線後に着工され、1978年から供用が開始された。雄別鉄道跡地を活用することで、自然に与える影響を極力抑え、釧路湿原などの自然と共存しうる自転車道を整備している。またかつて雄別鉄道の駅があった場所に、当時の駅名を冠した休憩所が設けられている。</p> <p>自転車道は、釧路河畔公園、丹頂鶴の飛来で知られる釧路湿原、釧路市動物園、釧路市阿寒町総合運動公園を結ぶ自然色豊かなコースを提供している。</p>
<p>配慮事項</p>	<p>○標識整備事業の経緯</p> <p>釧路阿寒自転車道線は、1978年、地元住民のレクリエーションのために整備された。しかし認知度の向上や、利用者の拡大、快適性の確保などの面において課題が持ち上がっていた。他方、近年のサイクリングブームにより、道内外から、釧路湿原を通る釧路阿寒自転車道への問い合わせが多くなっていた。また自転車道の所在地である釧路市には、2006年上期で152万人を超える観光客が訪れており、自転車を利用した観光の推進も期待された。しかし自転車道には、誘導標識や総合案内板などがなく、不便な環境であった。</p> <p>そこで道は、自転車道の安全性と利便性を向上させるために、標識整備事業を実施した。そこでは、快適な自転車利用空間を整備するため、①既存自転車道の利用促進、②近隣市町村民および観光客の利便性向上、③利用者が末永く愛着の持てる自転車道とすることの3つを目的としている。</p> <p>○標識整備における工夫</p> <p>自転車利用者の利便性・快適性向上のため、4つの区分の標識を整備している。</p> <p>①案内サイン(総合/地点)</p> <p>総合案内サインと地点案内サインは、利用者の現在位置や勾配を示す、自転車道の全体像や地理的情報を記載している。自転車道の認知度向上やサービス向上による利用者増加を目的として、自転車道の起・終点および近接する駐車場、公園、施設などに設置されている。</p> <p>②記名サイン</p> <p>自転車道の路線名(愛称、シンボルマークなど)を記載している。自転車道の認知度向上、サービス向上を目的とし、自転車道の起・終点および近接する駐車場や周辺施設からの入り口部などに設置する。(整備予定)</p> <p>③説明サイン</p> <p>景勝地の説明を記載し、自転車道利用者へのサービス向上を目的として景勝地点に設置する。</p> <p>④誘導サイン(自歩道用/車道用)</p> <p>自転車道への誘導を狙い、主要旅客施設である釧路駅周辺、主要道路、レンタサイクル店周辺を中心に設置された。また付帯施設や周辺観光地への誘導のために、自転車道の各休憩所間の中間地点や、周辺施設などへの分岐点にも設置された。(車道用サインは整備予定)</p>
<p>連絡先</p>	<p>北海道建設部土木局道路課道路計画グループ TEL:011-231-4111(内線 29-220) http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kn/ddr/cycling/kusiro-cycling.htm</p>